偽りの恋情

真羅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
偽りの恋情

【Ｎコード】
Ｎ７６２２Ｏ

【作者名】
真羅

【あらすじ】
億万長者の幼馴染から呼び出されたメイドのアエリア。
彼には誰にも言えない秘密があり・・・

1（前書き）

登場人物

☆アエリア・ミューザ　２３歳
ウォルト家別邸のメイド

☆フラン・ウォルト　２８歳
ウォルト家当主

☆コルドン・ウォルト　６３歳
ウォルト家元当主。一代で財を築き上げた

☆リフェルマータ・クラウ　３２歳
実業家と名乗る謎の青年

1

私は焦がれていた。
美しい幼馴染に・・・

＊＊＊

久しぶりに本邸へ呼び出された私はビクビクしばがら屋敷の若き主人を待った。
庭師だった両親が不慮の事故で亡くなり残された私を実の娘のように可愛がってくれたウォルト家、元当主。
現在は引退し息子のフランが全権を握っている。
幼い頃は、フランのあとばかりを追いかけていた為、フランは学友から冷やかされていた。
そんな彼も今では世界各地にホテルやアミューズメントパークを経営しており、この大陸きっての億万長者。
雑誌では結婚したい男性ナンバー1に輝くほど。
実際私も彼を昔から知る唯一の幼馴染の為、淡い恋心の一つや二つ持っていたりする。片思いで終わりそうだけど。

広い応接室にポツンと1人ソファに腰掛けていたアエリアは、突然開いた扉に驚き視線を向けた。
そこには、黄金色に輝く長髪を掻きあげた男性が立っていた。
久しぶりに会う幼馴染は、昔の少女のような可愛らしい面影を微塵も残さず絵本の中から飛び出した王子様そのものだった。
この容姿なら周囲が放っておくわけがないなぁ。と私は苦笑した。
そんな様子に反応したフランは面白くなさそうに表情を歪めてアエリアの向かい側へ腰をおとした。

「久しぶりに会った幼馴染に、失礼じゃないかい？」
「ごめんなさい。ただびっくりしたの。髪、長くて」
「見苦しいか？男が長髪だと…」
「え？ううん。似合ってるよ。ただ意外だったから」
「…憶えていたんだ」
「女の子に間違えられるんだよね。短くっても」

アエリアは、懐かしそうに目を細めて宙を仰いだ。
そのアエリアを見てフラン顔を左右に振った。

「思い出話は、もういいかな？」
「そんなに話していないじゃない」
「まぁあとで嫌ってなるほど話すよ。重要な話があるんだ」

先程とは打って変わってフランは、大きな瞳を縁取る瞳を俯かせて口を開いた。

「アエリア…僕と結婚してくれないだろうか」
「なッ……」

本当に絶句だった。
幼い日から恋い焦がれていた美しい幼馴染が……

ん？

苦悶の表情で私に求婚している？

「フラン……どうして目を合わせてくれないの？そういえば彼方って嘘吐く時と困った時って必ず人と目を合わさなかったよね」
「アエリア…」

「なぁに？」
「口外しないと約束してくれないか？君だからこそ言える内容なんだ」
思い悩んだ末の結論なのか膝の上で両手を組んでいるフランの手に力が入っているのがわかった。
そして、流暢にフランの口から流れる言葉にアエリアの表情は固まった。
「嘘！そんなの信じない！」
思わず出てしまった。嘘だと思いたかった。
「本当なんだよ。僕はゲイなんだ。女性に興味はない。現に片思い中の男性（ひと）が居るからね」
「どうして、それならどうして結婚になるの？」
「最近巷で売られている雑誌を見た父が結婚を急かすんだ」
「だからってそんな結婚だなんて…人を騙すなんてできない」
その言葉にフランは苦渋の表情を見せた。
「それに万が一よ？万が一その話が進んだとして、あなたのおじ様がお許しになるはずない」
彼に恋焦がれた時
目の前に立ち塞がったのが
越えられない壁――――身分の違いだった。
何故自分は貴族ではなかったのだろうかと。
でもまさか彼がゲイだったなんてね。

それでも、私はまだ彼が好きなんだ。

「その点なら問題ない。父は君が嫁に来たらと。ぼやいていた。父は君を娘のように可愛がっていたからね」

「おじ様が…」

「あぁ。アエリアにはそんな素振りみせていないらしいが、いつも君を案じている」

「…」

私は小さく頷いていた。

目の前に映るのは、私の王子様の笑顔だった。

「婚約期間は半年でいいかな？すぐに結婚だと不自然すぎるからね。社交界へアエリアをつれ回さないとな！」

フランは、私の両手を掴むとソファから立ち上がった。

そして挨拶をするかのように、私の頬に軽く唇を寄せた。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7622o/

偽りの恋情

2011年10月7日00時26分発行